

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

913

資源リサイクル事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	1	ごみ減量の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		清掃費	
	目		塵芥処理事業費	
	大事業		塵芥処理事業	
	中事業		資源リサイクル事業	

事業種別	継続	関連個別計画	一般廃棄物処理基本計画
事業年度	無し ~ 無し	担当課・担当課長・Tel	廃棄物対策課 根来 一智 435-1352
事業実施の根拠法令		関連課	収集センター

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	かん・びん・紙・布・ペットボトル等を資源としてリサイクルする。		循環型社会の形成を目指し、廃棄物の減量と有効利用するため、かん・びん・紙・布・ペットボトル等を中間処理の段階で資源としてリサイクルする事業			
事業内容		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		一般家庭から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 706.89トン びん 2,184.52トン ペットボトル 1,314.98トン 紙 2,747.06トン 布 780.57トン	缶・びん・紙・布等を資源としてリサイクルするための処理をした。 かん 668.01トン びん 2,060.94トン ペットボトル 1,286.14トン 紙 2,672.84トン 布 744.66トン	かん・びん・紙・布等のリサイクルを行った。 かん 605.49トン びん 1947.44トン 紙 2477.32トン 布 669.52トン ペットボトル 1248.18トン	かん・びん・紙・布・ペットボトル等を資源としてリサイクルするための処理をする。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	83,890	55,941	74,308	49,404	67,622	42,074	60,068	0	60,068	0
伸び率(%)	108.8%	39%	△11.4%	△11.7%	△9%	△14.8%	△11.2%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	6,904	6,827	7,474	7,474	6,993	9,665	12,807	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	6,904	6,827	7,474	7,474	6,993	9,665	12,807	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	640	918	962	1,202	1,260	1,795	2,394	0	2,394	0
一般財源(税等)	83,250	55,023	73,346	48,202	66,362	40,279	57,674	0	57,674	0
所要人数(人)	正規職員	0.89	0.88	0.96	0.96	0.89	1.23	1.63	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	令和5年度 手数料 67,489千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
収集運搬回数		回	目標値	52	52	52	52
			実績値	52	52	52	
			達成度(%)	100%	100%	100%	%
一般廃棄物のリサイクル率		%	目標値	14.52	14.52	14.52	14.52
			実績値	8.5	8.3	8.0	
			達成度(%)	%	%	%	%
			目標値				
			実績値				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成23年7月から雑がみを紙の一種として分別収集を開始し、収集資源を再生利用する取組が進んでいる。平成28年4月からは分別品目の変更により資源の有効活用を図っている。さらに、平成30年4月に青岸ストックヤードを開設し、市民が自己搬入するごみから資源化可能なものの選別をすることでごみの減量及びリサイクルを推進している。また、市民の自己搬入に対応し、ごみの見える化を進めることでごみ減量に対する意識の向上に寄与している。
見直し・改善内容	平成28年4月からは、今まで分別収集していたプラスチック製容器包装を、週2回の一般ごみとして回収し、焼却することでごみ発電(熱回収)による有効活用を行っている。「青岸ストックヤード」において、かん、びん等の資源搬入に対応するとともに、今まで焼却していた青岸清掃センターに自己搬入されるごみに含まれる資源を選別・ストックするなどにより資源化と、焼却ごみの削減に取り組んでいる。 和歌山市一般廃棄物処理基本計画により、令和2年度を目標として対平成22年度比総ごみ排出量約30%減を目指して様々な取組を行ってきたが、約20%減にとどまった。現在、令和3年3月に策定した第2次和歌山市一般廃棄物処理基本計画で定めた、令和8年度までに1人1日当たりのごみ排出量(資源を除く)を729gにするという新たな数値目標の達成に向け、廃棄物の適正処理と3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、さらなるごみ減量とリサイクルに取り組んでいく必要がある。